

廣瀬旭莊の日間瑣事備忘に、安政七年(萬延元)正月十三日旭莊が金澤で菊圃に會したことを記し、菊圃が丙午の歲(弘化三)江戸より郷に歸つたとあるを見るが、未だその詳傳を得ぬ。

タカサハジユンスケ 高澤順介 初名仙順、諱は篤、字は因材、培庵と號した。本多政養の儒臣で、寛政・享和前後の人。

タカサハゼイフコウ 高澤稅賦考 一冊。高澤忠順著。忠順は御郡奉行・改作奉行に歴任したから、加賀藩の農制に關する舊記を多く蒐めたが、後にそれを整理して改作權要記録と題し、御算用場の秘籍となつた。高澤稅賦考はその中の一部分を寫したものらしく、領内百姓の年貢の沿革を記してある。

タカサハタダヨリ 高澤忠順 通稱平次右衛門、初諱菊忠。寶曆七年父勘太夫の遺知四百五十石を襲ぎ、御馬廻に列し、能州御郡奉行に任じ、安永九年改作奉行、天明五年組外番頭となつたが、同年九月財政に關する建議をなした爲閉門を命ぜられ、六年御免、寛政四年加州御郡奉行、六年物頭並御作事奉行に任じ、十一年正月七日六十九歳を以て歿。忠順は鳴鶴と號し、改作所舊記一名高澤錄・改作權要記録・高澤稅賦考・金澤事蹟必録・明私筆記・鳴鶴記録・年代摘要等の著がある。

タカサハロク 高澤錄 ↓カイサクシヨキ ヌウキ 改作所舊記。

タカサブロウヤマ 高三郎山 石川郡倉谷に在る。高さ一四二二米。地質石英粗面岩。倉谷から山頂まで八軒。

タカシマ 高島 鳳至郡黒島の部落西方の岩礁。鷹島とも書く。

タカシマヤテンエモン 高島屋傳右衛門 越前敦賀の町人で、その家は前田利家の時から光高の代に至るまで、加賀藩の用を勤めた。

タカジヨウ 鷹匠 前田利家の時にも鷹野を行つたが、利長は殊に之を好み、慶長十年その富山に隱居の時の士帳にも、御鷹師五百石高田傳助以下二百五十石二百石一百石の人数三十名がある。利常も亦同じく、寛永四年の士帳に、御鷹師紫三百石高田傳助以下三十五名が見え、これ等は皆侍組であつた。綱紀の時に至り、改めて鷹匠を歩組の者とし、小頭のみ知行を賜はつた。寛文十一年の士帳に、鷹匠組小頭二百石大平源右衛門、同百拾石丹羽惣兵衛がある。

タカジヨウマチ 鷹匠町 金澤の町名。小立野のうちで、藩政中鷹匠の住宅があつた故に町名とした。寛文の初頃、鷹部屋を小立野へ移したと國事昌披問答に見えるから、鷹匠の居移をこゝに賜はつたのも同時であらう。

タカス 高須 鳳至郡名舟の内の小字。山中川のうち、蟋蟀橋から上流をいひ、高瀬漁火と題して詩歌に詠ばれる。卯辰集に山中十景高瀬漁火『いさり火にかじかや波の下むせび 芭蕉』とある。

タカセ 高瀬 長家家譜に、第十三代長九郎左衛門尉政連弟光連、初め左馬助と稱し、能州鳳至郡高瀬城に居り、後に政連は戦歿してその嫡子石若丸幼少であつた爲に、家系を繼いで穴水城に移つたとある。今鳳至郡に高瀬はないが、誤寫か又は消滅したかも明らかでない。

タカセヤマ 高瀬山 珠洲郡小木の西方に在る山。高さ圖上測定九〇米。地質第三紀層。

タカタ 高田 羽咋郡富木院に屬する部落。領家町村・地頭町村と共に惣稱して富來と稱する。

タカタ 高田 鹿島郡高田保に屬する部落。能登名跡志に、『高田村、田鶴濱より近し。高橋氏の十村役あり。此屋敷は、長家臣浦野孫右衛門屋敷跡にて、門前に馬場等あり。此村端に當國順禮廿一番の札所の觀音あり。出口に二宮川とて大川あり。長十一間の橋あり。』とある。

タカタ 高田 石川郡竹松の内の小字。タカタ 田形 鳳至郡北七海の内の小字。タカタウゲジヨウ 高峠城 河北郡に在つた。越登賀三州志故墟考に、この城の所在は小二又村の北で、乙丸村から三里許を隔つてゐるが、乙丸の飛地である。越中川上の難賀日向守が居たといふが明らかでないとしてゐる。

タカタキユウベエ 高田久兵衛 尾張にて前田利家に仕へた士。その嫡子木工は前田利長の時召出された。

タカタジ 高田寺 鳳至郡南時國に在つて、眞言宗に屬する。山號は劍山。もと劍山劍神社の社僧であつた。能登誌に、『劍山の別當を南之坊といふ。今高田寺と稱す。此寺兩時國家の菩提所にて、眞言の古刹也。』と見える。寺藏に木造藥師如來座像体高一米五四寸、木造阿彌陀如來座像体高一米四二寸、木造釋迦如來座像体高同上があり、室町時代の作と認められる。

タカタセキスイ 高田石水 高田文堂の二子で別に家を起した。名は守拙。書を以て子弟に教授した。

タカタゼンソウ 高田善藏 ↓タカタタネノブ 高田種養。

タカタゼンソウテン 高田善藏傳 一冊。外題に忠烈と角書がある。一名加陽忠孝實錄。著者不詳。安永九年二月八日前田重政の隱棲する金谷御殿に於いて高田善藏が中村萬右衛門を刺殺した首尾を書いたもので、重政の行狀と萬右衛門の非謀に就いて可なり詳細に述べてある。この事件の眞相は明らかに知れてゐないのであるが、當時巷間に傳へられた所は略本書の如くであらう。但し誤記もないではない。

タカタダイリンボウ 高田大林坊 寶曆の初、金澤博勞町に住んだ幻術師で、もと越中關野の百姓の子であつた。十一歳の時拔参りした際、江州愛知川から異僧と同道してその術を習うたといひ、帶刀した陰陽師となつて金澤を徘徊したが、後藩法に背くことがあつて、越中に追放せられた。

タカタタネツク 高田種次 通稱鐵三郎・治太夫・善右衛門。もと村氏。高田善藏種養の切腹した後、天明六年正月善藏の父治太夫種賢の名跡として百石を受け、文政二年前田齊泰御抱守を經、三年御附大小將番頭として五十石を加へ、文政七年百石を増し、御先手頭より次第に昇進して定番頭に至り、天保十一年二百石を加へ、十四年六月朔日歿した。

タカタタネノブ 高田種養 通稱善藏。大將組に班して五百石を受け、隱棲後の前田重政に仕へて居た。安永九年二月八日善藏金谷御殿に出動し、定番頭並兼御用部屋知行八百石の中村萬右衛門齊の至るを待ち、之を一

弟に教授した。

タカタタネノブ 高田種養 通稱善藏。大將組に班して五百石を受け、隱棲後の前田重政に仕へて居た。安永九年二月八日善藏金谷御殿に出動し、定番頭並兼御用部屋知行八百石の中村萬右衛門齊の至るを待ち、之を一

弟に教授した。

タカタタネノブ 高田種養 通稱善藏。大將組に班して五百石を受け、隱棲後の前田重政に仕へて居た。安永九年二月八日善藏金谷御殿に出動し、定番頭並兼御用部屋知行八百石の中村萬右衛門齊の至るを待ち、之を一

弟に教授した。

タカタタネノブ 高田種養 通稱善藏。大將組に班して五百石を受け、隱棲後の前田重政に仕へて居た。安永九年二月八日善藏金谷御殿に出動し、定番頭並兼御用部屋知行八百石の中村萬右衛門齊の至るを待ち、之を一

弟に教授した。